



編集 清水節義
発行所 白根町公民館
印刷所 笹勇印刷所



衆知を集めて

統合一におもむく

白根町長 庭山幸左衛門

懸案の町村合併問題はもとより劇的な大仕事であり、懸念なくやれないことは当然であります。

私が就任して早々でありました。私に就任して早々でありました。私に就任して早々でありました。

それより半歳のあいだ熱心に研究され、十月五日の町会に結論を見せられたりしました。

なお、今後の段階として、これは、これらにより打出される白根町の案によって関係村へ呼びかけて予備交渉をいたし、見通しのついたところで町会でもおもむくはこびになると思っております。

論説

統合問題もいよいよ本格的段階に達した。あすの白根町をつくる巨大な歴史の歯車は、一日と徐々ではあるが大きく回転しつつある。

統合問題もいよいよ本格的段階に達した。あすの白根町をつくる巨大な歴史の歯車は、一日と徐々ではあるが大きく回転しつつある。

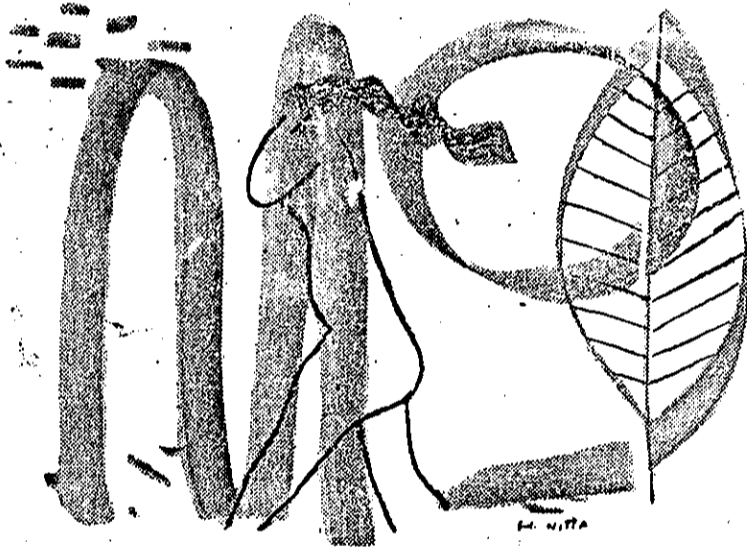
活潑なる建設的意見を

一万町民の総意で統合へ

でもなければ流行でもない。それは、われわれの、よりよい生活のため、にするのであつても、現在より、より悪くなるようであれば統合などしないほうがよいということになる。

でもなければ流行でもない。それは、われわれの、よりよい生活のため、にするのであつても、現在より、より悪くなるようであれば統合などしないほうがよいということになる。

紙上デッサン展 (9)



道はないとおもうのであります。私は町をこぞっての衆知の結果によって生れる案を最上無二の案と信じ、一歩々々、新白根町の建設に最善の努力をいたす覚悟であります。

夜がくると町はヒソヒソし、汽車も自動車もなかった当時では、舟が唯一の交通機関であり、泊まで歩き、寺泊より海路直江津に出て一泊し、汽車に乗ったものである。しかし、三十四年新潟一長岡の定期船、安心丸が信濃川に就航不能となり、新白根に航路を移したので、旅客の便はいくらかあたらされた。

白根町明治物語

明治前期 (一)

野沢吉太郎

秋

去るものへの思慕

新田公彰

暑かった夏も過ぎ去り、いつの間にか秋がやってきた。澄み渡った紺碧の空に、赤トレンジ色の木の葉が美しい。しかし、やがて季節がかわり木の葉が音もなく一ひらり二ひらり落ちる頃には秋も深まっていく。

尺考寸言

洞爺丸事件、相模湖の遊覧船の転覆、ゴウくたる世論を尻目にゆるゆると祖國を飛び立つた首相、深刻なデフレ等、日本をつむぐすべてのニューズは暗く重い。

と考えていた。洋服なんて見たこともなかった。たばこは専らたばこ屋で買った。たばこは専らたばこ屋で買った。たばこは専らたばこ屋で買った。

と考えていた。洋服なんて見たこともなかった。たばこは専らたばこ屋で買った。たばこは専らたばこ屋で買った。たばこは専らたばこ屋で買った。